2010～2011

東京三冠！



このシーズンは駒大高校サッカー部の新たな歴史を作り上げた１年となった。６月には関東大会東京都予選において優勝。インターハイ予選では惜しくも３位に終わり、全国大会を逃したが、４月～８月にかけて行われた TFA Ｔ１リーグにて初優勝！2011～2012 シーズンのプリンスリーグ昇格が決まった！そして、第８９回全国高校サッカー選手権大会において王者帝京を撃破し、初の全国へ！全国でも吹き荒れる駒大旋風は止まること無く、強豪を撃破して全国ベスト１６に輝いた！！



東京を制覇した駒澤スタイル！

『素早いプレスと素早いパスサッカー』
大野祥司監督がこだわる「勝利に対する執念」
これが駒澤サッカーの象徴です！
１番大事にしているものは何かと言われたら、
それは「魂」だろう！
どんな相手にでも真っ向勝負！苦しくても諦めずに走り続けるフィールドの選手達。
そんな姿を見ていたら応援せずにはいられない！
だから試合に出れない選手は一生懸命「応援」する！
今や駒澤の応援は対戦相手から恐れられる存在だ！
今自分が出来ることに全力で立ち向かう。選手・マネージャー・スタッフのすべてがひとつになったとき、駒澤のサッカーは完成する！
これが２０１０東京チャンピオンの駒澤スタイル！







第８９回全国高校サッカー選手権大会

東京大会決勝の舞台で帝京撃破！

東京大会決勝

【2010.11.13 国立西が丘サッカー場】

駒大高校 1−0 帝京高校

高校サッカーにおいて「帝京」の名前を知らない者はいないだろう。実際ここまで３年連続で東京を制覇している。その帝京を相手に決勝という最高の舞台で戦いを挑むことが出来た。両者一歩も引かないその戦いの決着は、後半の４０分を過ぎていた。駒澤＃８黒木がペナルティエリア内で倒されＰＫをとる。これを＃４キャプテン大畠が落ち着いて決めて先制！西ヶ丘が揺れる！
この１点を必死に守りきった駒澤は、悲願の初優勝を決めた！歴史が変わった瞬間だった。





聖地国立で開幕戦！大津を撃破！

開幕戦【2010.12.30 国立競技場】

駒大高校 2−1 大津高校

夢の全国の初戦は、国立の舞台だった。
抽選により東京Ｂ代表になった駒大高校は開幕戦を引き当てる。対戦相手は熊本の強豪「大津高校」だった。この日の為に用意されたビッグフラッグと駒澤魂を持った応援団が国立を赤に染めた。試合開始５分であっという間に＃９高平が先制！その後、１点を返されるが駒澤の勢いは止まらない！後半に＃８黒木のロングフィードに＃１１須貝が魂のこもったダイビングヘッドで追加点！試合終了間際にＰＫを献上してしまうが、これをＧＫ岸谷がスーパーセーブ！全国大会初戦を制し、２回戦に駒を進めた！

本田圭佑の星稜に辛くも勝利！

２回戦【2011.01.02 柏の葉公園総合競技場】

駒大高校 0−0 星稜高校

ＰＫ4−2

選手権“最激戦ブロック”と言われたＡブロック。気を抜く間もなく石川の強豪星稜高校と２回戦を戦うこととなった。この試合は「我慢比べ」。お互いのディフェンス力が光るゲームとなった。その均衡は最後まで破れること無く９０分が終了。試合はＰＫ戦での決着となる。８９回大会の選手権は数多くのＰＫ戦があったが、有名な選手もことごとく外している。しかし、このプレッシャーに打ち勝った駒澤の選手は４人全員が決め、星稜は３人目が外し、４本目をＧＫ岸谷が初戦に続きスーパーセーブを見せた！　駒澤旋風は３回戦へと進んだ。





前回王者山梨学院に無念！

３回戦【2011.01.03 フクダ電子アリーナ】

駒大高校 0−1 山梨学院高校

初出場で１６強まで上り詰めた駒澤は、昨年度初出場で全国制覇を成し遂げた山梨学院と３回戦を戦った。前半２０分までは駒澤ペース。おしいシーンが何度もおとずれる。しかし、王者は強かった。ＦＫにより１点を奪われ、その後は山梨学院ペースとなる。後半は一進一退が続き、時間は刻一刻と過ぎていく。試合終了間際に放たれた、＃９高平のミドルシュートもバーに嫌われる。試合終了。駒澤の熱い冬は終わった。
４１８５チームの頂点を目指した駒澤の戦いは、全国ベスト１６という輝かしい結果を残し終了した。